



Japan
Heart

年次報告書

2020.4.1～2021.3.31

2020 Annual Report



2020年
国連UNIATF賞
受賞



救えるはずの命を、 救えるはずだった 命にしない。

そんなジャパンハートにたくさんの心が響きあい、
アジアで、日本で、命を救う力になっています。



Vision ビジョン

すべての人が、
生まれてきてよかったと
思える世界を実現する。

Build a world where everyone can be grateful
for the gift of life.

Mission ミッション

医療の届かないところに
医療を届ける。

To deliver healthcare to medically-isolated areas.

私たちは、出会えた一人ひとりの輝く人生のために、
治療を超えた医療の可能性を追求し続けます。



Japan Heart

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ジャパンハートは、誰もが「生まれてきてよかった」と
思える社会を実現するため、医療・福祉分野を
はじめ様々な活動を実施しています。私達は、
子ども達の未来のために「持続可能な開発目標
(SDGs : Sustainable Development Goals)」の
達成に貢献します。当年次報告書では、紹介する
各プロジェクトに関連した SDGs 目標のアイ
コンを併記しています。

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>

CONTENTS

ジャパンハートのビジョンとミッション	
SDGs 達成への貢献／目次	2-3
吉岡秀人 ジャパンハート最高顧問 メッセージ	
ジャパンハートのあゆみ	4-5
〈2020年度活動報告〉	
2020年度 TOPICS	6-7
2020年度の活動ハイライト	8-9
カンボジア	10-11
ミャンマー	12-13

ラオス	14
グローバル人材育成	15
国際緊急救援 (IER)	16-17
SmileSmilePROJECT	18
地域医療支援 (RIKAjob)	19
活動へのご支援／広報実績	20-21
ご支援頂いた企業	22
会計報告	23



今、カンボジアの首都プノンペンのホテルにいる。これで2021年は4回目の隔離生活だ。

2週間ホテルに軟禁される。部屋からは出られず、食べ物も選べない。もちろん誰にも会えないし、太陽にも当たれない。

そして帰国後は再び2週間、日本でも隔離生活が待っている。今年はさらにもう一度、海外に出かけなければならないだろう。

1年のうち5か月間。この21世紀に、ただ国境をまたいだだけで私は犯罪者のように軟禁され、移動・行動の自由を奪われている。

しかも、感染がなくても感染者と同様に扱われるという有様だ。

当初、日本やアジア各国より遥かにダメージが大きかったアメリカやドイツではすでに日本人渡航には隔離はなくなっている一方で、こうして対応が追い付いていない国もある。そのしわ寄せは多くの子どもたちの命に及び、新型コロナウイルスよりもはるかに多くの死をもたらしめているという皮肉な現実の前に、言葉を出す気にもなれない。

私自身も、こんな目にあってまでそれを成す意味があるのだろうかと何度も自問する。

あとせいぜい30年足らずの大切な自分の限られた寿命の一部を、こんな軟禁生活のために差し出さないといけないのだろうか？

他人の命がかかっていることは百も承知、しかしその期待に応えるために生きることは私を本当に幸せにするのだろうか？

かつてこれと同じような状況があったことを思い出した。

今から26年前の1995年、初めてミャンマーで医療活動を始めた頃、貧しく医療保険もない彼らにとって、私は確かに彼らの“命の最後の砦”だった。

あれからジャパンハートにはたくさんの医療者や仲間が集い、私は“命の最後の砦”ではなくなり、多くの仲間が砦を守る一つ一つの砦となっていた。

しかし時は巡り四半世紀。天は私にもう一度、最後の砦の役割を課してきた。コロナによって日本からの専門家たちの渡航が遮断され、小児がんをはじめとする難病の手術が難しいカンボジアで今、彼らを救える唯一の人間はお前だけなのだ。

“命の最後の砦”たらんと私は万難を排し、決断しなければならないのだろう。

その思いはやがて、無数の医療者やそれを支える仲間たちに広がり、再び強固な巖になって多くの命を救ってくれる未来を信じている。

人生には避けて通れない難所もある。

カンボジアそして、ミャンマーやラオス。
クーデター後、医療者の職場放棄が続くミャンマー。
小児の難病の治療が未だに困難なラオス。

私たちが成さねばならないことはまだまだ続く。
私たちはまだ、道の途中、夢の途中。

振り返れば、無数の善意の人々がこの道に続いてくれることを信じている。

特定非営利活動法人
ジャパンハート 最高顧問
ファウンダー

吉岡秀人

ジャパンハートのあゆみ

1995

吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始

2004

国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・国際看護師研修）

2008

《日本》東京事務局開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《日本》僻地・離島支援開始
《日本》心の医療事業開始
（現・SmileSmilePROJECT）
自由都市・堺 平和貢献賞 奨励賞受賞
NPO 法人格取得

2009

《カンボジア》医療支援活動を開始

2010

《ミャンマー》養育施設 DreamTrain 開設
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設
大山健康財団賞受賞（吉岡秀人）

2011

《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定 NPO 法人」として認定を受ける
《日本》宮城県石巻
「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設

2012

大山健康財団賞受賞

2013

《ラオス》医療支援活動を開始
《タイ》バンコクオフィス開設
《フィリピン》台風30号緊急医療支援

2014

《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
外務大臣表彰
沖縄平和賞受賞
「明日の象徴」受賞（長谷川彩未）

2015

《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
大山健康財団 激励賞受賞（河野朋子）

2016

《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハートこども医療センター）開院
《ミャンマー》小児心臓病サポート開始

2017

社会貢献者表彰受賞
保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK 厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）
《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始

2018

《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功
第6回エクセレントNPO大賞「市民賞」ノミネート
第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞 受賞

2019

《カンボジア》
「長沼給食センター」が竣工し患者への給食提供を開始
第7回エクセレントNPO大賞「大賞」及び「市民賞」受賞

2020

令和2年7月豪雨を受け、熊本県で医療支援活動。
同県と「大規模災害時等における支援活動に関する協定」を締結
新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、クラスター発生施設などで医療支援を実施
国連 UNITAF 賞（United Nations Inter-Agency Task Force on the Prevention and Control of Non-communicable Diseases Award）受賞

パンデミックが変えた医療支援活動

年間2万人を救う 医療活動が危機に直面

医療者などボランティアが渡航できない中、
新型コロナの2次被害を防ぐための活動に尽力しました



嘉数 真理子
ジャパンハートこども医療センター小児科部長



吉岡秀人は定期的に渡航し、手術を実施

——私たちのカンボジアでの医療支援活動の拠点「ジャパンハートこども医療センター」は、2020年に開院5周年を迎えました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、医師もまた渡航制限の対象となり、それに伴って医療ボランティア活動の中止などが相次いだため、活動の継続が危機にさらされました。それでも、救える命を一つでも多く救いたい。そんな思いから、ジャパンハートは新たな試みを行いました。

2020年9月17日から10月31日にかけて実施したクラウドファンディング「# ジャパンハート活動支援クラファン」では、カンボジアでの高度医療の無償提供と、医療従事者の教育・育成のため、1,000万円の目標を掲げました。最終的には646名の方から、目標を大きく上回る総額1,896万3000円のご支援が寄せられました。

この資金を活用して、ジャパンハート最高顧問・吉岡秀人が定期的にカンボジアへ渡航し、できる限りの小児がん手術を実施。多くの患者さんを救う事ができました。

それでも、肝芽腫で入院した2人の患者さんの手術は、吉岡と現地にいる医師だけでは実施が難しいと判断されました。

そこで、この小さな患者さんたち、サチャ君とソリヤカン君の手術を日本で行うため、来日治療プロジェクトを立ち上げました。

このプロジェクトにも多くの方々のご賛同をいただき、サチャ君は2021年2月12日、ソリヤカン君は同2月16日に、岡山医療センターで無事に手術を終えました。2人は付き添ったご家族と共に3月14日にカンボジアに帰国し、4月23日にはジャパンハートこども医療センターを退院する事ができました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでは国外からの医療支援によって保たれていたカンボジアでの医療は危機に陥りました。

新型コロナウイルス感染症がもたらした活動の危機を乗り越えるにあたり、支援者の皆様からは多くの温かいご支援をいただきました。この情勢でも多くの命を救えたのは、ひとえに皆様のご厚意のおかげです。改めて心から感謝申し上げるとともに、今後も、より多くの子どもたちに医療が届けられるよう、力を尽くしてまいります。



2人の患者は来日治療を実施

▶ ジャパンハートこども医療センター

2016年、ジャパンハート医療センターとして開院。2018年に小児専門病棟を増設し、「ジャパンハートこども医療センター」と改名し、カンボジア唯一の小児固形がん治療病院として、多くの患者を受け入れています。

詳細:10ページ

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な感染拡大により、国内外のジャパンハートの活動も大きな影響を受けました。人の移動の制限、国内各地でのクラスター発生など、あらたな医療課題に直面する中、私たちもできる限りの活動を通して、命と心を救う医療に取り組みました。

日本国内の 「医療の届かないところ」を 救うために

全国の医療者から次々に寄せられる助けを求める声に、
ただ必死で応え続けた1年間

——ジャパンハートの海外活動は、年間700名を超える日本からのボランティアに支えられています。常日頃から私たちの活動を支えてくれている彼らに対して、何かできることをしたい。その一心で、物資供給や医療チーム派遣、感染対策指導や心のケアなど、私たちがもつリソースをすべて使って様々な課題に対応しました。

2020年4月7日に国内史上初の「緊急事態宣言」が発令された1週間後に実施し、1万5000名以上の賛同を集めたのが「# マスクを医療従事者に」プロジェクトでした。ゴールデンウィーク前に全国の医療従事者に届けるため、27時間で集まった1億5千万円を、多くの方々の協力で200万枚のマスクに替え、全国720以上の医療/福祉機関に配布。怒涛のプロジェクトが、国内COVID-19緊急救援活動の始まりとなりました。

時を同じくして、長崎県に停泊していた客船「コスタ・アトランチカ」でクラスターが発生。平時から離島への看護師派遣で繋がりがあった同県を皮切りに、自治体からの派遣要請が相次ぐようになります。当初は後方支援を活動のベースとしていましたが、「最前線と共に闘う」を合言葉に、第三波を目にした10月、「クラスター支援班」を結成します。感染リスクが高く支援が入りにくいレッドゾーンでの活動と夜勤対応が可能な看護師だけを集めた、まさに精鋭部隊です。ジャパンハートのスタッフ

はもちろんのこと、元DMAT隊員や青年海外協力隊の一時帰国者など、「少しでも過酷な現場の助けになれば」という熱意を共通点に、様々なメンバーが集まりました。全国へ転戦を繰り返し、第4波までに支援した医療機関/施設数は全国36都市で75件、派遣者数はのべ240名を超えました。間違いなく日



高橋 茉莉子
副事務局長 / iER 事業部長 / 広報 FR 部長



コロナ病床やクラスター施設など最前線での医療支援

本一、クラスター支援を経験したチームだと自負しています。

感染制御やマンパワー的補助はもちろんのこと、掃除や食事介助など通常の看護師業務でないことも「なんでもやる」が私たちのモットーであり、災害支援の鉄則です。平時海外を拠点に活動する団体ならではの、フットワークの軽さと、物的にも人的にも不十分な環境で医療を行ってきた経験が、国内の「医療の届かないところ」に医療を届ける力になりました。

あるメディアに、ジャパンハートのクラスター支援班が「最後の砦」と紹介されました。私たちはこれからも、多くの期待を背負い、社会のセーフティーネットとして自分たちに出来る最大限の取り組みを行っていきます。

▶ 国際緊急救援 (iER)

大規模自然災害および感染症拡大をはじめとする緊急時に、医療の観点で必要な支援を届ける iER (International Emergency Relief) 事業。ジャパンハートは、国内外の発災時に災害専門の医療支援チームを派遣する人的支援を中心として、被災地に医療資材をはじめとする物資支援を行います。また、それらに備えて平時より災害ボランティアを育成する研修を定期的に実施しています。

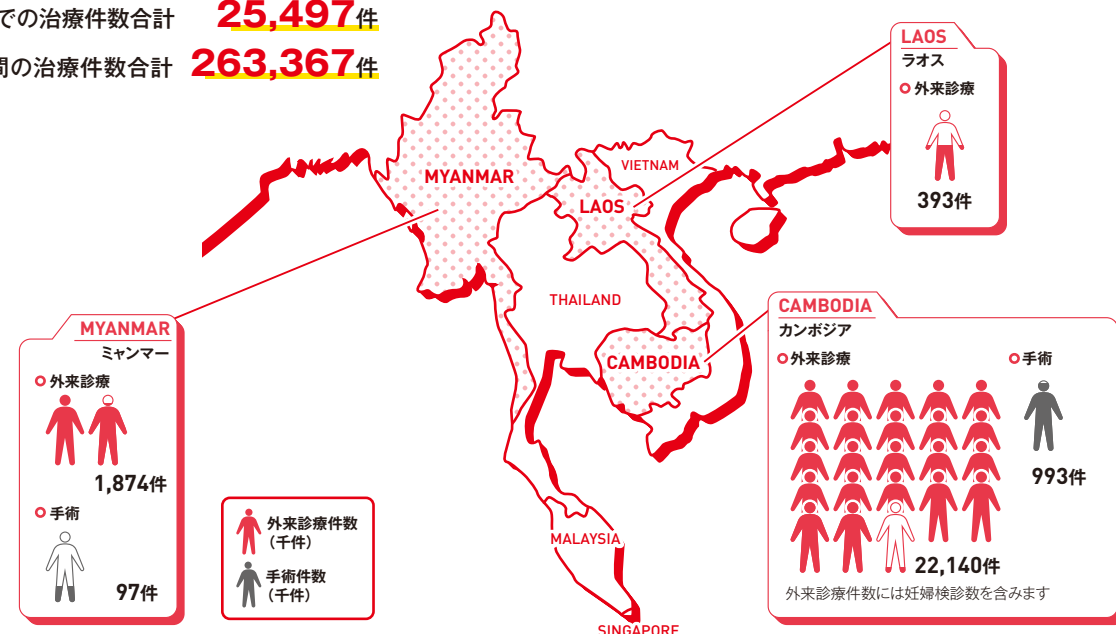
詳細:16ページ

2020年度ジャパンハート活動ハイライト

2020年度、ジャパンハートは多くの協力者を得ることで活動の幅を広げ、たくさんの患者に医療を届けることができました。

▶2020年度治療件数 / 海外活動地

- 2020年度海外での治療件数合計 **25,497件**
- 設立から17年間の治療件数合計 **263,367件**



【カンボジア】集中豪雨で被災したボーサット州にて緊急医療支援を実施



【カンボジア】小児がん治療件数が延べ150名に達する



【カンボジア】小児がん患者2名の手術を国立病院機構岡山医療センターで実施

佐賀県に事務所を設置し、佐賀県及び公益財団法人佐賀未来創造基金と進出協定を締結

2020

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2021

1月

2月

3月

4月



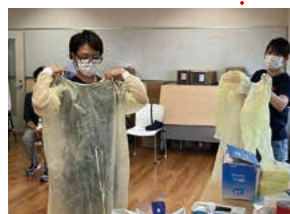
医療崩壊を防ぐクラウドファンディング「#マスクを医療従事者に」で1万5千名の方々から支援金を調達し、医療機関にマスク約200万枚を供給



クルーズ船「コスタ・アトランチカ」への医療チーム派遣を皮切りに、新型コロナウイルス感染症に関する人的医療支援を開始



【カンボジア】医療者をを目指す学生の奨学金事業・夢の架け橋プロジェクト10周年



介護福祉施設での新型コロナウイルス感染症対策指導を開始



AC キャンペーンスタート (第二期)



令和2年7月豪雨で被災した熊本県八代市および人吉市で緊急救援活動を実施



国際連合から東南アジアでの非感染症疾患への対応が評価され、「2020 United Nations Inter-Agency Task Force on the Prevention and Control of Non-communicable Diseases Award」を受賞

新型コロナウイルスの影響で困難になっていた高度医療の無償提供、医療従事者の教育・育成を支援するクラウドファンディングを実施

医療物資などのマッチングプラットフォーム「Heart Stock」をアクセンチュア株式会社と共同で開発



徳洲会グループとの提携により、有事の看護師派遣スキームを構築



【ミャンマー】新型コロナウイルスの治療を行う病院に医療物資を寄付



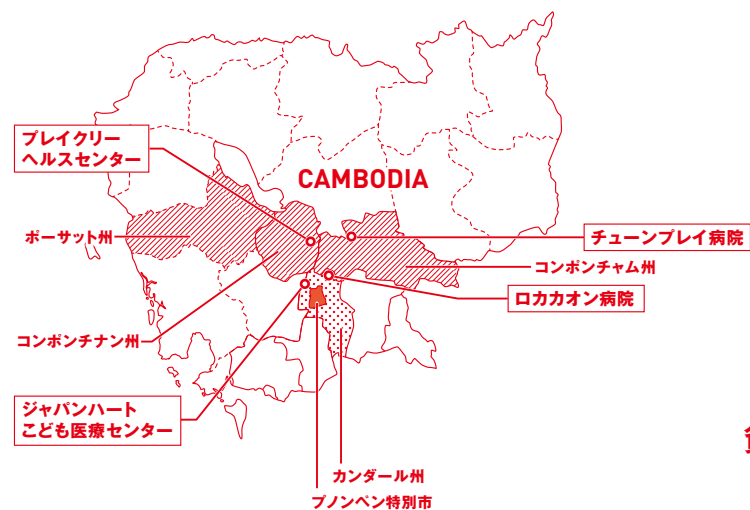
熊本県と大規模災害時における支援活動に関する協定を締結



カンボジア

Cambodia

移動規制などの影響を受けたものの
現地スタッフが着実に成長



20年に及んだ内戦の爪痕が
今もなお深く残るカンボジア。
知識人の大量虐殺により、
当時残った医者は
40名程度だと言われている。
貧しい人々に医療の届かないこの国では、
1歳に満たない子どもが
年間約1万人も亡くなっている。

医療活動



2020年5月から2021年2月にかけては新型コロナウイルス感染症のまん延が比較的穏やかだったため、外来診察数は一昨年度比で108%と微増だった半面、手術件数は71%、妊婦検診件数は77%と、国内の移動規制などの影響が数字に表れた部分もありました。

小児がん患者の入院者数は大幅に増加しました。新規入院患者数が85名と前年度の2倍以上の数となりましたが、これは日本各地のこども病院それぞれに1年間で入院する小児固形がん患者数を超えています。コロナ禍で短期ボランティア派遣が停止された中でこの結果は、カンボジア人医療者の成長を物語っていると言えます。

また、10月には、台風「ナンカ」の洪水被害にあったポーサット州で、緊急支援活動を実施しました。8名のスタッフが現地を目指す道中では、田畑や道路の水没のため、車が進めなくなるなど、インフラや移動手段のよろさを実感。4日間の医療活動で診察した患者さんは、計488名となりました。家屋の浸水や作物への悪影響など、生活環境に甚大な被害が及ぶ中、汚水が原因と思われるケガや病気、洪水による精神的な不安など、さまざまな症状の患者さんたちを診察しました。

周産期医療



現地の病院と連携を図りながら、延べ3,499名への妊婦健診を実施。あわせて月に2回程度、近隣の妊婦さんを対象とする母親学級を開催しました。産後のお母さんには、必要なケアや指導も行っています。今年度は、低体重児のケアも新生児科医の指導で行うことができるようになりました。加えて産婦人科医の滞在期間には、帝王切開や現地病院で対応が難しいハイリスク分娩も行なっています。

実績 診療：成人14,932件、小児2,609件

手術：成人823件（分娩含む）、

小児221件（小児がん74件含む）

活動地 ジャパンハートこども医療センター・ボンネルー病院・ロカカオン病院／カンダール州、チューンブレイ病院・チャムカルー病院・パティエ病院／コンボンチャム州、プレイクリーヘルスセンター／コンボンチナン州、ボーサット州

給食調理施設



昨年度竣工した長沼給食センターでは、2019年10月より小児がん患者さんに給食の提供を開始しました。単に栄養豊富な給食を提供するだけではなく、提供した食事を患者さんがどの程度食べる事ができたかを示す指標、「喫食率（0から4の5段階）」を測定しました。その結果、2020年4月から2021年3月までの1年間で、喫食率を1.83から3.13まで大幅に向上させる事に成功。1年間で子どもたちがしっかり食べてくれる給食となりました。



医療学生育成活動「夢の架け橋プロジェクト」



2011年度に開始した「夢の架け橋プロジェクト」は、2020年度に10年目を迎えました。在籍奨学生は計19名（医学部生12名、看護学部生7名）。また、15名の卒業生は現在、全員がジャパンハートこども医療センターで勤務しています。新型コロナウイルスの影響によりカンボジア全土での学校閉鎖が続く中、奨学生たちはオンライン授業で講義を受けるとともに、学校での病院実習の代わりにジャパンハートこども医療センターにて実習を行いました。

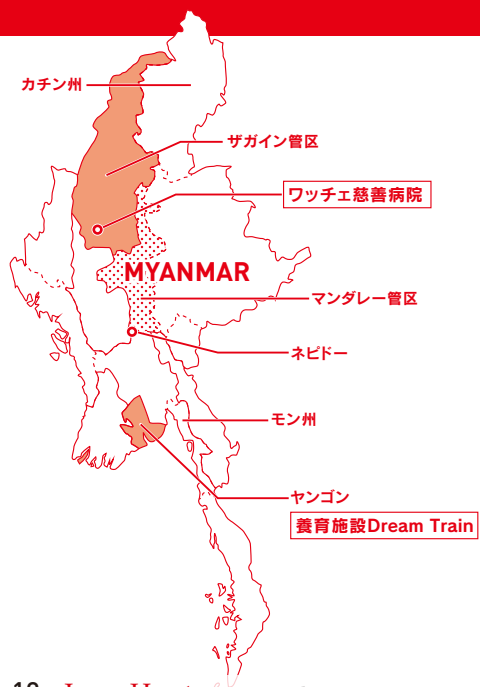




ミャンマー

Myanmar

様々な国難が医療活動を直撃 混沌の渦中でも希望を紡ぐ



**都市部の発展が進む、ミャンマー。
しかし、国土のほとんどを占める農村部には
貧しい村々が広がる。
保険制度も整っておらず、貧しい人々は
病院へ行くことを諦めてしまう。
そして国境地域では、貧しさ故に、
子どもたちがたった数万円ほどで人身売買されている。**



医療活動



2020年度は、ミャンマー事業にとって試練の1年でした。この年に発生した2つの国難により、私たちの活動は大きな影響を受けました。

1つ目は、新型コロナウイルス感染症のまん延です。2020年3月に国内初の感染者が見つかって以降、移動をはじめとするさまざまな行動制限が発令されて外来患者が減っただけでなく、保健省から緊急性の高い症例以外の手術を控える通達が出たために、実施可能な手術数が減少し、加えて出張診療もできなくなりました。視覚障がい者支援事業においては、医療マッサージを指導するトレーニングセンターが使用不可となり、毎年行ってきた講習もできませんでした。

2つ目は、2021年2月に発生したクーデターです。突如発生した政変と、それに対するミャンマー全土を挙げての抗議活動によって、ミャンマー社会は深い混乱に陥りました。流血を伴う大弾圧やインターネットの遮断、公立病院の機能不全、銀行の業務停止など、次々と巻き起こる予測不能の事態に呑み込まれ、新型コロナウイルスとはまったく別の脅威に翻弄されることとなったのです。

実績 外来診療：1,725件

手術数：97件

このような厳しさの中でも、ミャンマー事業部は可能な限りの活動を継続してきました。活動内容の一部をオンラインに切り替えたほか、情勢に細心の注意を払いながら医療活動を準備し、届けうる支援を絶やさぬよう、スタッフ一同奮起して臨んだ1年でした。

医療活動としては、提携病院での手術や近隣地区の僧院検診、日本人専門家による現地医療者へのオンライン講義、

新型コロナウイルス治療施設への物資寄付を実施しました。視覚障がい者事業でも、希望者に向けてオンライン講義を行いました。サイクロン被災児童への支援や医療学生らへの奨学金支給も、途切れることなく続けています。「できる限りを精いっぱい」の下、限られた選択肢の中ではありましたが、できる範囲の活動に注力しました。



養育施設 Dream Train (ドリームトレイン)



子どもたちの通う学校が休校となっただけでなく、来訪者や施設外での活動機会が激減しました。夏休み期間に毎年行ってきた遠足や職場体験学習も、中止とせざるを得ませんでした。

元気いっぱいの子どもたちにとっては、息のつまる時間でした。しかし、オンラインでのエクササイズイベントや里親交流会、学習会など、インターネットを介した取り組みを増やしたことで、かえって新鮮な気持ちを取り戻し、新たな交流の形を楽しむこともできました。画面の向こうに映る支援者の方々のお力により、子どもたちは元気に過ごすことができました。

非常に苦しい状況ではあったことは、紛れもない事実です。しかし、福音もありました。日本人医療者が渡航できない分、現地人スタッフの間に「自分たちだけでしっかりと医療活動を遂行しよう」という意識が高まり、オンラインアクティビティに備えるために通信環境を改善したことで、子どもたちの学習効率やスタッフのデジタル機器に対する理解度が一挙に向上しました。

普段から課題として意識していたものの、なかなか改善できずにいたことが、苦境に立ち向かう中で克服されていく。多くの制約を受けながらも、スタッフがが一丸となって前向きな変化を起こすことができた点は、将来に向けての大きな布石になるものと考えています。



ラオス

Laos

困難な中でも歩みを止めず
ラオス人の手で現地の人々の笑顔を守る



医療活動



実績 診療393件、手術0件

活動地 ヱィエンチャン特別市、ウドムサイ県病院

2020年度は、ラオス事業にとっても試練の1年となりました。新型コロナウィルス感染症の拡大を受けて、日本人職員がいったん帰国。再渡航の目途が立たない中、ラオス人職員だけで業務を再開することになったのです。もちろん、日本人職員も遠隔で業務を行いましたが、慣れない環境に、お互い戸惑うことの連続でした。

そんな状況でも、患者さんはやって来ます。2018年度に始まった「ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術活動」で診察してきた患者さんの中には、既に長い間手術を待っている方もいましたが、厳しい入国制限のために日本人医師の渡航が叶わず、手術の延期を余儀なくされました。

窮地の中で患者さんとラオス事業の活動を守ってくれた

のが、現地病院の医療者とジャパンハートのラオス人職員です。約2年間の活動で培った経験や知識を生かし、日本人不在の中でも出来ることを全力で行ってくれました。安全面を考慮した結果、手術活動こそできませんでしたが、定期的な内科診療や薬の提供を行い、患者さんの状態を常に確認してくれていました。ラオス人職員も総出で医療者をフォローし、遠隔での指示の下、業務を滞りなく進めてくれました。

このようなラオス人職員の頑張りの結果、ラオス事業はこの1年間止まることなく続きました。出来ることは限られましたが、現地の職員が自立して事業を動かすことが出来た経験は、必ず今後につながると確信しています。

年度末によろやく日本人職員の渡航も叶い、再スタートを切ったラオス事業。この1年で得た経験を活かしてさらに活動を飛躍させ、1人でも多くのラオスの人々に医療が届くように、改めてメンバー丸となって取り組んでいきます。



グローバル人材育成



▶ “人間力の高い人材”の育成の成果が発揮された1年

ジャパンハート創設時に始まった本研修には、これまで280名近くの看護師・助産師が参加しています。研修では、途上国と国内離島・僻地での活動を通し、看護師・助産師という枠を越えて、“人間力の高い人材”を目指しています。

途上国では不安定なインフラ、限られた医療資材と医療者の中で「患者さんにとって最善の医療」に全力で取り組みます。不便な環境の中で、できない理由や理屈を並べるのではなく、あるモノで何ができるかを考える力を養い、知恵を付ける。自分の中の「当たり前」が当たり前ではない世界で、自分の在り方まで問われることで、看護・助産実践能力のみならず人間力も身に着けるのです。

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響により、海外活動中の研修生は緊急帰国、国内活動中の研修生は海外研修が延期となりました。活動が制限される中で、研修生たちは「できないこと」ではなく「いま私たちにできること」を意識。その結果、多くの研修生たちが COVID-19 クラスター支援や「令和2年7月豪雨」の災害支援に参加するなど、ジャパンハートの理念である「医療の届かないところに医療を届ける」活動を精力的に行

いました。

注目すべきは現研修生だけではなく、多くの修了生もクラスター支援や災害支援に参加したことです。どの活動地から、柔軟性、順応性に対する高い評価をいただきました。これは私たちが目指してきた“人間力の高い人材”の育成の成果です。

▶ 人材育成の強化とサポートの充実

団体の Vision/Mission/Value の設定に伴い、研修においても目標設定シートを導入し、定期的な評価を行いました。また、海外研修が中断したため、オンラインを通じたコミュニケーションを定期的に取り、現地の情報提供などを行うことで、モチベーション維持に努めました。





国際緊急救援 iER : International Emergency Relief



▶令和2年7月豪雨災害緊急救援

2020年7月3日に始まった集中豪雨は、熊本県を中心として九州各地に甚大な被害をもたらしました。避難者数が2,500人を超え現場が混乱を極めるなか、ジャパンハートも7日に先遣隊を派遣。翌8日より八代市内2カ所の避難所で、保健師業務のサポートを開始しました。

避難所では、毎日のように出入りがあり、各避難者の既往歴などが分からない状態で、異常の早期発見や受診の検討をしなければなりません。ある方は、「車も保険証も流されて何もない」と、段ボールで区切られたスペース内で痛みを限界まで我慢しており、ジャパンハートが緊急搬送に付き添ったところ、尿路結石の悪化で即手術となりました。

また、多くの医療NPOが撤収していく中、保健所からの依頼を受けて、8月10日より同県で最も避難者が多かった人吉市避難所での活動を開始。3カ所いずれも、多くの方が自宅や仮設住宅に移られた8月末に撤収し、出勤から約2カ月にわたる支援となりました。

ジャパンハートの災害支援の特長は、「地域に寄り添い、中長期で支援する」ことです。被災地が日常に戻るまでの長い期間の中で、せめて少しでも「安心」を届けられるよ

う、私たちは活動を続けます。

▶熊本県と大規模災害時等における協定を締結

2016年の熊本地震や令和2年7月豪雨、新型コロナウイルス感染症クラスター施設での支援活動を受け、2021年3月8日熊本県と、大規模自然災害や感染症拡大時に医療支援で協働する旨の協定を締結しました。



▶新型コロナウイルス感染症緊急救援

ジャパンハートは、2020年4月の「#マスクを医療従事者に」や全国クラスター医療機関・施設への医療チーム派遣（7ページ参照）以外に、新型コロナウイルス感染症にかかわるさまざまな課題に対して、支援活動を実施しました。

介護福祉施設への感染対策指導▶

風に立つライオン基金との協働で、全国の介護福祉現場で働く医療・介護従事者向けに、防護具の着用や施設内のゾーニングに関する指導などを実施。2020年5月から12月までに、36都道府県の658施設、延べ1,599名の方にご参加いただきました。

医療／介護従事者専用コミュニティ「ジャパンハートソーシャルネットワーク」と寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」リリース▶

有事の際に物的支援を迅速にマッチングするため、供給企業と医療・介護施設をつなぐコミュニティを開発。さらに、アクセンチュア株式会社との協働で、プラットフォームとなるアプリを開発しました。

IER ボランティア登録研修▶

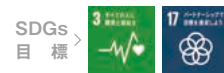
2020年12月、災害ボランティア新規登録研修を、進出協定を締結した佐賀県会場とオンラインにて実施し、医療従事者・一般・学生など25名が参加しました。これにより、ボランティア登録者数は135名となりました。

感染症の拡大により、災害時の避難所運営やボランティアの受け入れにも新たな対応が必要とされています。十分な知識を備えて現場で医療を届ける人材を増やすべく、今後も緊急救援事業を強化していきます。





SmileSmilePROJECT



SmileSmilePROJECT では、小児がんと闘う子どもたちとご家族が大切な時間を過ごせるよう、医療者付き添いの旅行サポートをしています。

小児がんの治療を受ける子どもたちは、治療中・治療後の合併症などもあり、ご家族だけでの外出に不安を抱えています。そんな子どもたちとご家族に、かけがえのない時間を過ごしてもらうための活動です。

2020年度は、144名の子どもたちとご家族をお招きし、延べ58名のボランティアの方にご協力していただきました。これからも小児がんと闘う子どもたちとご家族の力になれるよう、活動を続けてまいります。

個別企画▶2020年度は20件を実施。アンパンマンこどもミュージアムや東京ディズニーリゾート、鉄道博物館など、さまざまなテーマパークを訪問しました。北海道へのイカ釣り旅行や、ご家族でよく行っていた思い出のショッピングモール訪問もありました。株式会社一休のご支援により、旅館やホテルで大切なひと時を過ごしてもらう企画も実施しました。

招待企画▶ハウステンボス、キッザニア東京、親子でヴィーガンスイーツ体験の3件を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、3件のみとなりましたが、たくさんの方のご協力により開催が実現しました。

ご家族からのお便り

「東京ディズニーシーご招待企画」へ参加

息子はトイストーリーが大好きで、ずっとディズニーへ行きたいと言っていました。そんな時に病院の先生からSmileSmilePROJECTの事を教えて頂き、ディズニー旅行の夢が叶いました。当日には看護師さんやボランティアの方が同行してくださり、何から何までサポートして頂きました。皆さん嫌な顔ひとつ見せずに息子のために全力で走り回って下さいました。自由に乗り物に乗れない息子のために色々楽しめる事を用意していただき、たくさん息子の笑顔を見ることができて本当に感謝しています。



地域医療支援 / RIKAJob

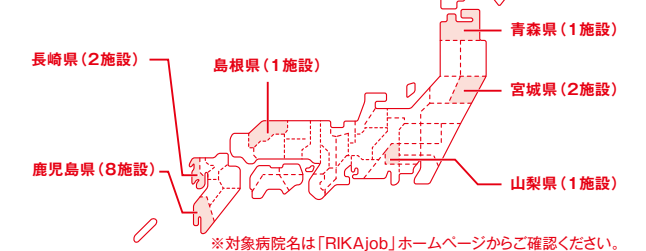


2018年度に立ち上げた地域医療支援活動では、日本国内の離島・僻地で深刻な問題となっている看護師不足に対して、「RIKAjob」サイトの運用による看護師の人材紹介を実施しています。2020年度は支援対象病院に新たに3つの病院が追加され、合計15病院となり、看護師40名、助産師5名を派遣しました（累計369名）。

支援対象病院は、宮城県女川町・気仙沼本吉町・山梨県牧丘町・島根県隠岐島前・長崎県上五島・長崎県対馬・鹿児島県奄美群島（奄美群島活動地：奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島）に、新たに青森県大間町・鹿児島県与論島・屋久島が追われました。支援対象病院には定期的に視察を行い、病院側や派遣者との直接的なコミュニケーションを図ることにより、課題改善に努めたほか、僻地・離島のより魅力的な情報発信のためにウェブサイトの内容充実に取り組みしました。また、15病院から個々が働きたい病院を自由に組み合わせる複数の離島・僻地を経験できる離島ホッピングの広報も強化し、参加者への魅力向上に努めました。



支援対象病院



災害支援スキームの構築

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中で脅威をもたらす中、国際緊急救援（iER）事業では、全国各地でクラスター支援活動を開始しました。今後も感染症のクラスター発生や自然災害に対して迅速に看護師を確保し対応できるように、RIKAjobの一環として災害支援スキームを構築します。これは、平時は僻地に看護師を派遣し、発災時はその看護師が災害支援活動に従事する制度です。

本スキームの最初の提携先は東北地方の3病院ですが、今後、より多くの看護師の派遣を目指します。iER事業とRIKAjobの連携により、離島・僻地への人材支援と災害支援活動の安定的な人材確保の実現を目指していきます。

活動へのご支援

ジャパンハートは、総収入の91%が皆様からのご寄付で成り立っています。
いただいた寄付金・募金は「医療の届かないところへ医療を届ける」ため、大切にに使わせていただきます。

ジャパンハートは認定 NPO 法人です。

ジャパンハートにご寄付いただくと、税制上の優遇が受けられます。

所得控除と税額控除から、いずれか有利な方を選択することができます。
所得控除の場合、(寄付金額－2,000円)×40%の額が所得税から控除されます。

《控除の対象とならないもの》

- ・会費
- ・イベント／ボランティア活動／研修などの参加費
- ・募金箱への募金　・匿名寄付

継続的な寄付（マンスリーサポーター）

1日100円から、心を救う医療を届けることができます。

【ベーシックプラン】

3,000円／月（1日100円）

1年間で70人の患者さんを診察できます。

【スタンダードプラン】

10,000円／月（1日333円）

1年間で10人の患者さんを手術することができます。

【プレミアムプラン】

100,000円／月（1日3,330円）

1年間で小児がん患者さん1人を治療することができます。

プランに応じて一般には公開していない活動詳細および現場の声など特別コンテンツの閲覧、サポーター限定講演会へのご招待など、ジャパンハートや国際協力／医療支援をもっと身近に感じていただけるお礼の場をご用意しています。詳しい御礼の内容は、ホームページをご覧ください。

▶ オンライン決済（クレジットカード）

団体ホームページ「寄付をする」ページへ。
「継続的な寄付」を選び決済をお願いします。

▶ 口座からの自動引き落とし

電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて
口座振替用紙をご請求ください。

継続的な寄付に
関するページは
こちらから▶



今回のみの寄付

ご自身が関心のあるテーマを選択してご寄付いただくことができます。

▶ オンライン決済（クレジットカード）

団体ホームページ「寄付する」ページへ。「今回のみの寄付」を選び決済をお願いします。

▶ 口座への振込み

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀 行 名 ゆうちょ銀行
口 座 名 義 特定非営利活動法人ジャパンハート
記 号 番 号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀 行 名 ゆうちょ銀行
口 座 名 義 トクヒ ジャパンハート
預 金 種 目 当座
店 名 ○九九店（ゼロキュウキュウ店）
店 番 099
口 座 番 号 0166806

遺贈での寄付

遺言書に全てまたは一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただくことで、大切な資産を未来のためにお役立ていただけます。

詳細資料をご用意しておりますので、電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にてご請求ください。

※必要な手続きを取ることで、税法上の特例措置が受けられます。

※実際の手続きを行う際は、弁護士などの専門家や、信託銀行など専門機関への相談をお勧めします。

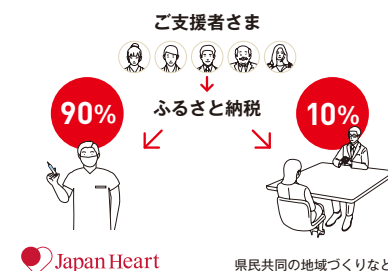


ふるさと納税で寄付

2020年12月に特定非営利活動法人ジャパンハートが事務所を開設した佐賀県では、NPO 団体を支援する制度を実施しています。

ジャパンハートを指定して佐賀県にふるさと納税（寄付）をすることで、寄付額の90%がジャパンハートの活動に活用されます。（10% は県の事務費や県民協働の地域づくりに活用）

ふるさと納税を利用した寄付金のうち、2,000円を超える部分については、所得税の還付や住民税の控除が受けられます。（一定の上限があります）



身近な物で寄付

書き損じはがき30枚で、5歳の子ども10人に抗生物質の注射をすることができます。

①古本で寄付する：読み終えた本、DVD、CD など。

③洋服で寄付する：使わないブランドものの洋服など。

②物品で寄付する：未使用切手や使わなくなったカメラや携帯電話など。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力業者になります。
詳細は、団体ホームページ「支援する」ページからご確認ください。

ジャパンハートアドバイザリーボード



本田 圭佑
挑戦者



田村 淳
ロンドンブーツ1号2号
タレント



吉田 正樹
株式会社ワタナベエンターテインメント
代表取締役会長



小松 成美
作家



武田 双雲
書道家・現代アーティスト



樹林 伸
マルチコンテンツ
クリエイター



山田 進太郎
株式会社メルカリ
代表取締役 CEO



望月 理恵
株式会社セントフォース所属
フリーアナウンサー



松浦 美穂
TWIGGY.オーナースタイリスト

アドバイザーの方々には、イベントへの登壇やマンスリーサポーター限定コミュニティ「ジャパンハート部」Facebook グループへのご参加などを通じて、私たちと活動を共にし、応援していただいています。

広報実績

TV 番組への出演

2009～11年 毎日放送「情熱大陸」合計3回出演

2013年 NHKBS プレミアム「輝く女」

2014年 テレビ東京「未来世紀ジバング」1回目
内閣府テレビ CM 出演

2016年 テレビ東京「未来世紀ジバング」2回目
NHK E テレ「先人たちの底力 知恵泉」

2017年 フジテレビ「あいのり：Asian Journey」
テレビ東京「未来世紀ジバング」3回目

2018年10月 テレビ東京系「世界ナゼそこに？日本人～知られざる波瀾万丈伝～」、NHK 総合テレビ「実感ドドド！」（九州・沖縄向け）

2019年2月 テレビ東京系列「日経スペシャル 未来世紀ジバング～沸騰現場の経済学」

2019年3月 NHK BS 1「カンボジアに医療の灯を」、NHK 福岡放送局およびFBS 福岡放送のニュース番組（ミャンマー国内初の小児生体肝移植）

2019年12月 NHK BS1 国際報道番組「キャッチ！世界のトップニュース」

2020年4月 テレビ東京「カンブリア宮殿」

2020年6月 フジテレビ「石橋、薪を焚べる」

2020年9月 フジテレビ「フューチャーランナース」

企業とのパートナーシップ

ジャパンハートは、企業・団体の皆様とお互いの特長を活かした協働によって、共に「医療の届かないところに医療を届ける」活動に取り組んでいます。ぜひ一度、電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にてお問い合わせください。

メールアドレス：publicity@japanheart.org

▶2020年度のご支援事例



ダイワボウ情報システム株式会社

ダイワボウ情報システム株式会社

新型コロナウイルス感染の世界的大流行に伴う医療支援としてジャパンハートに寄付いただき、全国のクラスター医療／福祉機関への医療チーム派遣活動に活用させていただいた他、離島・へき地で地域医療に従事したい看護師・助産師支援事業「RIKAjob」のオンラインイベントをご後援いただきました。



森永乳業株式会社

販売チェーン各社のご協力の下、キャンペーン対象商品の売り上げの一部をご寄付いただく「つながるエールプロジェクト」などを通して、新型コロナウイルス感染症と闘う医療従事者をご支援いただきました。



パナソニック株式会社

新型コロナウイルス感染症への支援として、ジャパンハートと共同開発した専用寄付サイトを通じて従業員に寄付を募っていただいたほか、巡回診療に役立つソーラーランタンなどもご提供いただきました。



株式会社インターサーブ

新型コロナウイルス感染症の拡大の中、多大な負担がかかっている医療現場の方々を少しでも支えたいと、ジャパンハートを通じて医療従事者をご支援いただきました。



小野薬品工業株式会社

カンボジアでの医療人材育成のための支援金や、ジャパンハートこども医療センターの施設整備のために、長年のご寄付をいただいています。



KDDI 株式会社

社会貢献活動に取り組む団体と応援したい人をつなぐ同社運営サイト「キボウのカケハシ」や、株主優待カタログを通じてご寄付いただきました。



第一三共株式会社

労働組合と共同で医療従事者支援の募金を実施。集まった募金と同額を同社がマッチングギフトとして提供し、ジャパンハートを含む医療支援を行う団体にご寄付いただきました。



太陽生命保険株式会社・大和証券グループ本社

両社の間で寄付つきグリーン・ローンを締結。寄付先として、ジャパンハートを選んでいただきました。



デルヴォー・ジャパン株式会社

ハンドメイドのミニチャーム「Les Miniatures NIPPON」の売り上げの一部を、ジャパンハートの医療支援活動のためにご寄付いただきました。



株式会社ドッツウィル

商品の売り上げの3%をジャパンハートに寄付していただくとともに、SmileSmilePROJECTの活動を全面的にご支援いただいています。



株式会社はなぜんフローリスト

国内外での被災地での医療活動などに賛同し、離島・僻地や新型コロナウイルス感染症クラスター発生地域などに医療従事者を派遣する活動をご支援いただきました。



株式会社松屋

イベントに合わせたチャリティー企画や寄付付きチャリティーアイテムなどの販売を通じて、ご支援いただいています。

プロボノ・ボランティア活動による支援



アクセンチュア株式会社

医療物資などのご支援に加え、より多くの物資を、迅速に、医療・福祉機関に届けるマッチングシステム「Heart Stock」の開発をお手伝いいただきました。



クラシス株式会社

医療・福祉に特化した人材紹介会社として、広報支援のほか、社員の皆様によるボランティア活動を通じて、事務局業務をお手伝いいただいています。



株式会社 LIFULL

社員の皆様による広報戦略や発行物のデザイン・編集支援などの形で、ジャパンハートの事務局業務をお手伝いいただいています。

会計報告

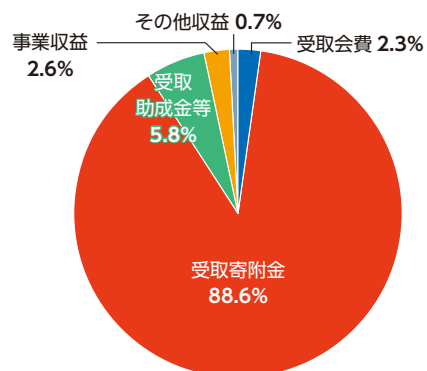
▶2020年度 活動計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

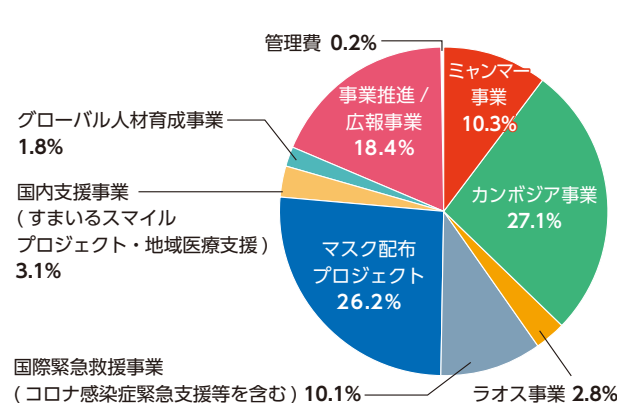
(単位：円)

科目	決算額	前年度決算額
I 経常収益		
1 受取会費	20,544,003	23,138,000
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金	798,131,383	286,378,809
3 受取助成金等	52,045,760	5,000,000
4 事業収益	23,681,507	55,621,260
5 その他収益	6,749,045	2,639,601
経常収益計	901,151,698	372,777,670
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費	142,966,760	151,921,193
(2) その他経費	398,967,572	256,300,329
旅費交通費	30,828,285	39,918,698
学業・子ども支援費	22,921,685	27,312,106
減価償却費	33,355,100	34,097,889
消耗品費	5,472,107	12,510,598
医療支援・医療器具備品費	22,424,793	22,957,494
地代・家賃	10,486,259	11,564,009
広告宣伝費	35,208,758	33,326,822
その他活動に係る経費	238,270,585	74,612,713
事業費計	541,934,332	408,221,522
2 管理費		
(1) 人件費	17,892,023	13,201,730
(2) その他経費	22,255,812	18,150,488
管理費計	40,147,835	31,352,218
経常費用計	582,082,167	439,573,740
当期経常増減額	319,069,531	▲ 66,796,070
III 経常外収益		
固定資産売却益（海外車両）	239,219	293,975
経常外収益計	239,219	293,975
IV 経常外費用		
固定資産売却損（国内土地）	-	178,118
控除対象外消費税等	-	-
経常外費用計	-	178,118
税引前当期正味財産増減額	319,308,750	▲ 66,680,213
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	319,238,750	▲ 66,750,213
前期繰越正味財産額	479,875,203	546,625,416
次期繰越正味財産額	799,113,953	479,875,203

▶収入内訳



▶支出内訳（国別、事業別）



ジャパンハートが 大切にしている3つのこと

自分の人生と同じように、相手の人生を大切にする

私たちは、自他を信頼し、思い遣りの心を持ち、謙虚さを忘れず
感謝することこそが、互いの人生の価値を高めると信じます。



社会全体の幸福最大化を常に考え行動する

私たちは、社会の一員として、
今日よりよい明日を創るべく、向上心を持ち挑戦し続けます。



出会いを最高の価値あるものにする

私たちは、国、人種、政治、宗教など相手の境遇を問わず、
出会えたすべての人に対し一丸となって最善を尽くします。



Japan
Heart

特定非営利活動法人 ジャパンハート

問い合わせ・資料請求

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-10 1510ビル3階
TEL. 03-6240-1564 FAX. 03-3845-6530 E-mail : publicity@japanheart.org URL : <https://www.japanheart.org>

※本書の一部または全てを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

